

「さんべでミルクさんまい！」

1 趣 旨

- ・地域資源を生かした体験活動を通して、三瓶地域の魅力や体験活動に興味・関心をもってもらう。
- ・「生産→加工→消費」のストーリーを取り入れた活動を通して、より充実した体験活動を楽しんでもらう。
- ・親子で一緒に活動することにより、親子活動の楽しさを知ってもらう。
- ・体験活動に興味・関心をもってもらうことで、以降も体験活動をしたいという意欲につなげる。

2 事業の概要

(1) 期 日

- ①令和4年7月23日（土）～7月24日（日）【1泊2日】
- ②令和4年9月10日（土）～9月11日（日）【1泊2日】

(2) 会 場

国立三瓶青少年交流の家・福間牧場

(3) 協 力

福間牧場（チチヤス株式会社）

(4) 対 象

小学校3～5年生とその家族

(5) 参加者

①39人 ②39人 ※募集人数：各回10家族35人程度

(6) 日程・内容

【1日目】

10:00～	受付
10:30～11:15	オリエンテーション・はじめの会
11:30～12:30	昼食
13:00～17:00	■牧場見学〈福間牧場〉（2h） ■ミルク教室〈チチヤス（株）〉（2h）
18:00～19:00	夕食・入浴・休憩
19:00～	■天体観望会〈三瓶自然館サヒメル〉 ■自主活動〈所内〉 ※カプラ、卓球、バドミントンなど
20:30～22:00	入浴・就寝準備
22:30～	就寝

【2日目】

6:30～	7:00	起床・荷物整理
7:00～	7:30	清掃
7:30～	8:30	朝食・荷物移動
9:00～		退所点検
9:30～13:00		アウトドアクッキング（ホワイトシチュー・はなまるパン）
13:30～		おわりの会・解散

3 事業の特色

(1) プログラムデザインと企画のポイント

「牧場見学」では、牛舎の見学やエサやり体験をしたり、酪農家から牧場の仕事の内容や、牛

の一生についての話を聞く時間をとった。その後の「ミルク教室」では、乳製品の製造販売を手掛けるチチヤス株式会社のミルクマスターの協力のもと、牛乳をテーマとした話やクイズなどを行い、親子で考えながら学べる時間となるようにした。2日目の「アウトドアクッキング」では、三瓶高原牛乳を使ったホワイトシチューとパンづくりを実施。パンづくりは、ダッチオーブンを使って行う、当所の人気メニューである「さんべ花まるパン」を自分たちの手でこね、発酵させるところも経験できるようにした。パンのボリュームが多いことを考慮し、ホワイトシチューは通常の半分の量におさえ、小さめの鍋をガスコンロにかけて作ることにした。

(2) 運営のポイント

今回初めて交流の家を利用したり事業に参加したりする家族が多かったため、事業の日程はゆとりをもって計画した。また、当日は施設の利用の仕方や案内を丁寧に説明し、所内に誘導看板をたてるなど、参加者が円滑に行動できるように案内をした。

三瓶の地域資源を活かしたプログラムを通して、三瓶の自然や体験活動の楽しさを感じ、魅力を知るきっかけとするため、小学生を対象とした親子活動を実施した。参加者には「体験の風をおこそう」運動のチラシを配布し、「はじめの会」と「おわりの会」で体験活動の重要性について説明した。

保護者向けアンケートのほかに、子どもの声を聞くために「酪農家さん、ミルクマスターさんへのお手紙」として、子供用のメッセージカードを配布して感想を求めた。子供たちが書いたメッセージカードは、事業後に、協力していただいた福間牧場とチチヤス株式会社の方へ届けた。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計 (%)

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	94	6	0	0
プログラム	94	6	0	0
運営	100	0	0	0
職員の対応	100	0	0	0

(2) 参加者の声

- ・酪農家の生の声が聞けて勉強になりました。牛乳をはじめ食べ物を大切にすることを子供に伝えたいです。
- ・来なければできない体験ができた。

＜酪農家さん・ミルクマスターさんへのお手紙 より＞

- ・牛がこわかったけど、エサをあげたら楽しくなって牛と仲良くなったようにおもいました。
- ・おいしさについて知れてうれしいです。

5 成果と課題

《成 果》

- ・牧場体験では、初めは「臭い」と鼻をつまむ子や、大きな牛に怖がる子もいたが、エサやり体験を通して積極的に牛とふれあい、牧場の仕事や牛の一生の話を聞くことができた。
- ・ミルク教室では、牛乳の栄養や、カルシウムの大切さについて学び、命の大切さや食に対する興味・

関心につなげることができた。また、酪農家のお話は、新型コロナウイルスの影響で生乳の需要が減少し、ウクライナ情勢の影響による飼料や燃料費などの高騰により、酪農業界を取り巻く環境の変化と抱える問題点を知ることができた。酪農家の生の声を聞くことにより、親子で「食」について考えるきっかけづくりができた。

- ・保護者向けアンケートのほかに、子どもの声を聞くために「酪農家さん、ミルクマスターさんへのお手紙」として、子供用のメッセージカードを配布して感想を求めたが、大人にはない感想がかかれており、子供の目線でこの事業をどう感じているかを知ることができた。

《課 題》

- ・ミルク教室の内容は「低学年には難しかった」という声があった。低学年、幼児なども興味を持てるように、視覚化・動作化を取り入れた話の構成が必要である。また、会場のセッティングについても、参加者がリラックスして教室に参加できる雰囲気づくりも必要だと分かった。
- ・活動場所の制限や、アウトドアクッキングの道具不足などの理由から、多くの申込者をお断りした。ニーズが高い事業のため、今後、募集人数を増やして実施することができないか検討したい。



牧場見学でエサやり体験



ミルク教室 ミルクマスターさんからのお話



ミルク教室
酪農家さんからのお話



夜の牧場見学



アウトドアクッキング